

2019年7月2日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 525

オープンサイエンスの情報インフラと活用―

## 研究・実験データの保管・共有の推進方策 2

～ 研究データ管理のプラットフォーム／研究者・大学の取組みと責務 ～

7月26日（金）開催

ご参画・ご派遣のお願い

学術研究・科学イノベーションの“オープン化”が、世界の大きな潮流となっております。わが国においても、政府レベルでの研究情報基盤・プラットフォームの構築、大学・研究機関における研究・実験データの保管・活用・管理、そして教員・研究者の日常的研究活動にとっての重要テーマとして、本格的な取組みがスタートしています。

研究・実験データの改ざん・捏造の抑止効果や研究履歴の検証・再現性の確保に向けて、「研究データ10年保存」が大学・研究機関の責務となっております。また、保管・共有化されたビックデータのオープンな再利用・活用により、研究効率の向上・加速化のイノベーションにつながります。

本セミナーでは、4人のコアパーソンから世界及び日本の「オープンサイエンス」と「研究データ管理」の最新動向、事例の紹介とともに、今後の推進方策について論展いただきます。

第1講の船守美穂氏(国立情報学研究所)からは、基調講義として、世界のオープンサイエンスと研究データ管理の最新動向とともに、わが国の全体動向、NIIにおける研究データプラットフォームの構築・整備動向や大学・研究機関の研究データ管理の課題や必要性について論展いただきます。

第2講の前田幸男氏(日本学術振興会)からは、人文学・社会科学系データの公共財としての共有制度基盤、米・欧・東アジアにおけるデータインフラストラクチャーの事例、ISPSにおける推進事業の全体像と取組み、各拠点機関の活動と実際について紹介・講義をいただきます。

第3講の込山悠介氏(国立情報学研究所)からは、NIIリサーチ・データ・クラウドの管理・公開・検索サービスの全体状況、管理サービス GakuNin RDM のシステム・機能、大学・研究機関との連携の仕組み、実証実験の取組み事例、そして各研究機関への導入方策について紹介・講義いただきます。

第4講の青木学聡氏(京都大学)からは、京都大学のアカデミックデータ・イノベーションユニットにおけるボトムアップによる全学的研究データ体制づくりの経緯と現況を踏まえ、学術機関・学術ドメイン・研究者が期待するデータマネジメント環境について論展いただきます。